



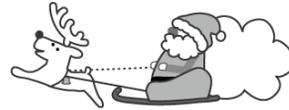
行事予定表		
1	火	消防署見学(5歳児)
2	水	交通安全教室(2歳児以上)
3	木	子育てサロン
8	火	わくわく交流会・ピヨピヨひろば
10	木	カレーの日
16	水	リトミック・おべんとうデー
17	木	子育てサロン
18	金	誕生会
21	月	クリスマス会
25	金	避難訓練
28	月	保育納めの会

今月のねらい
・今月も薄着を心掛け、積極的に戸外で沢山遊びたいと思います。また、クリスマスや年末などの行事に興味・関心を持てるように働きかけて行きます。

それでも子ども達は寒さに向かって元気にクリスマスの歌を唄いサンタを楽しみに待っている。子ども達の未来が明るく輝くように！

国債(借金)を積み上げ、格差を広げる。汚染も借金も、子ども達にふりかかる。

目先の豊かさばかり追求し今さえ良ければとCO2を排出し地球を汚染しつづけ
豪雨・竜巻・天候不順・・・
確実に地球は温暖化している。



十一月十七日
「二の酉」であることを車のラジオで知った。私は半袖だった。とても不思議な感覚だった。記憶の中の、子どもの頃に毎年連れて行かれた「おとりさま」はとても寒かった。

今月の予定の中から

●消防署見学(1日)

この間、5歳児は牛久シャツまで散歩に行き、今回は消防署まで足を延ばしてみます。自分の足でしっかりと歩く経験と消防士の方々のお仕事の様子を感じることが出来たらと思います。
*徒歩のため、雨天時は中止となります。

●交通安全教室(2日)

今月は「一時停止」をクリスマスツリーを作りながら学びます。その際に2・3歳児は4・5歳児とペアになり、クリスマスツリーを飾ります。

●わくわく交流会(8日)

5歳児が牛久二小の一年生と交流を楽しみながら、就学へ期待を高めて行きます。今5歳児は、上靴の管理をしたり、一日を時間を意識しながら生活をしています。

●リトミック(16日)

日頃より、リズムに合わせて身体表現を楽しんでいる子ども達ですが、当日は中島先生からのご指導を受けることで、集中力も養いながら、五感を刺激して頂きます。

●誕生会(18日)

誕生会の際も、月を追うごとに集中時間も延び、誕生者を祝う気持ちが増しているように感じます。年に1回の特別な日となりますように。

●クリスマス会(21日)

今年も、そろそろ園内がクリスマスモードに変化して行きます。5歳児のキャンドルサーピも練習が始まりますが、今年のクリスマス会も、子ども達の心に沢山の夢が膨らむきっかけとなりますように！

★お知らせ☆お願い

★年末・年始は12月29日～1月3日まで休園となります。年末年始にお休みの予定のある方は担任までお知らせください。(給食食材の関係上大変助かります。)



★お子さんの衣服は通園に適していますか？

パーカー付の上着・スカート・チニツク丈の物・フリルや紐のついたものなどは不向きです。フアッション性重視ではなく機能性重視の服装でお願いします。(あくまでも大人の方の判断で・・・)

★体調不良等で戶外遊びを控える際も、天候や活動によって参加出来る場合もありますね。

その際には、園に判断を委ねて頂いたり、口頭で担任にご相談ください。

★お餅つき(1月15日)のお手伝いをして下さる男の方(つき手)を大募集しています。

担任または事務室までお声掛けください。お餅つきを子ども達と楽しみたいと思います！
★先月から、調理補助として日野原和恵さんが勤務していますので、宜しくお願ひします。

子どもを大切にする園



受験地獄が低年齢化している。小学校低学年の時から遠くの塾に通い、夜の十時頃に帰宅する子が普通という生活である。幼稚園でも同じようなことが行われているところがある。▼私の子どもの頃は、学校から帰ると、玄関にランドセルを放り投げて、近くの原っぱや公園で日の暮れるまで遊んだ。遊び疲れて空腹になり、家に帰ると家族みんなで、大きな丸いちゃぶ台を囲んで、競うように夕食を食べ、ぐっすり睡眠り、宿題なんていつも忘れていた。いつもいつも楽しかった。悪ガキだったが、両親は勿論、町の人々みんなに見守られ愛された。▼ルソーは、「早教育は、不確実な未来のために、現在を犠牲にする残酷な教育である。」と言っている。幼少期の生活は、やり直しができない。お受験小学校に入るため、家族の団らんもなく、普通の家なら家族揃って楽しく夕食の食卓を囲んで

でいる時間に、わずか小学校三年や四年生が、コンビニのおにぎりやパンをかじって塾に通っている姿は異常だ。今、我慢すれば中学・高校受験で苦勞しないからと言われ、毎日ドリルに向かわされ、間違えると叱咤される。常に緊張を強いられ、監視・監督され続け、休むことさえ許されない。しかし、なんとか受験校に入っても、家が、団らん、心のやすまる場所ではない。いつもテストの連続で順位をつけられる。成績が下がれば、また叱咤される。今我慢し、入ってしまった苦勞しいと言われたが、とんでもない。前よりもっと苦しくなる。これでは子どもがまともに育つわけがない。常に指示・命令され、自分の意思などないところで、自主性・自立心など育つわけがない。▼「佳き日の思影」という本の中で、幕末・明治期に来日した外国人が、日本人の生活を見て、日本の庶民は、一様に貧しいけれど貧困はない、心豊かな生活だ、と言っている。エドワード・モースは「世界中で、日本ほど子どもが親切に扱われ、そして子どもの為に深い注意が注がれる国はない。ニコニコしているところから判断すると、子ども達は朝から晩まで幸福であるらしい。」と言っている。当時の写真を見ると、みんなにこやかに笑っているイザベラ・バードも、「日本人はもともと子どもを大切にす国民だ」と言っている。山上億良も「子どもは金銀財宝にも増して、宝である」と言っている。▼しかし、欧米のキリスト教的文明に傾倒して、日本のそういう美風が破壊されつつあるとも、当時来日した外国人は述べている。そして、今まさに競争社会が子ども達の世界にまで入り込んで、競わされて脅かされ、心が休まる暇がないようになっていく。

理事長 浅田 精利

